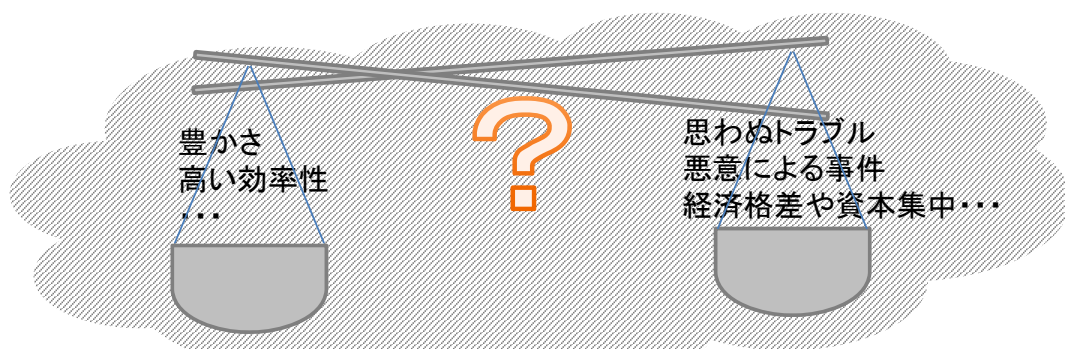


## 研究開発領域の必要性

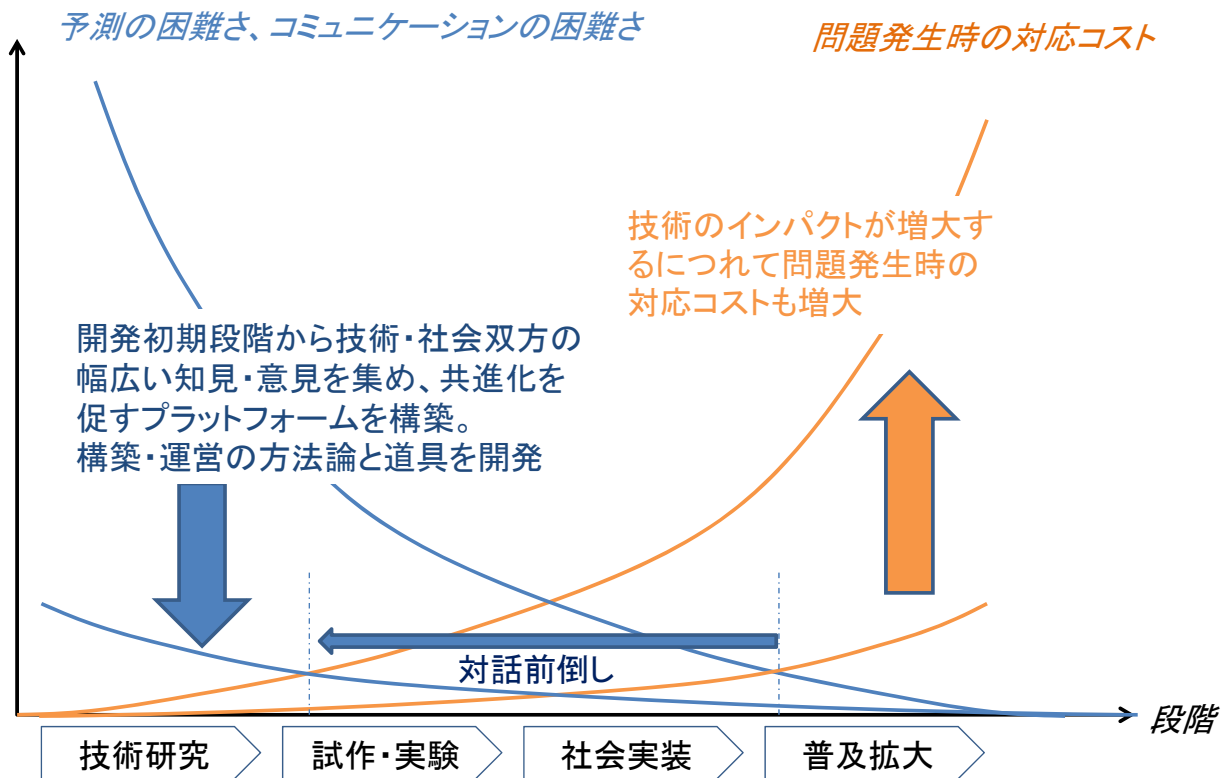
- IoT、ロボット、人工知能といった情報技術は、社会に新たな大きな変化をもたらさうる。  
しかし、
- 現時点ではその潜在的なメリットと負のリスクが明瞭ではない「萌芽的技術(emerging technology)」の段階である。



“メリットやリスクは、多様な解釈・イメージ・メタファーで語られている”

- よって、研究開発の初期段階から広い範囲の人々が評価に関わる参加型技術評価、上流制御(Upstream Engagement)が必要である。(佐倉2009)

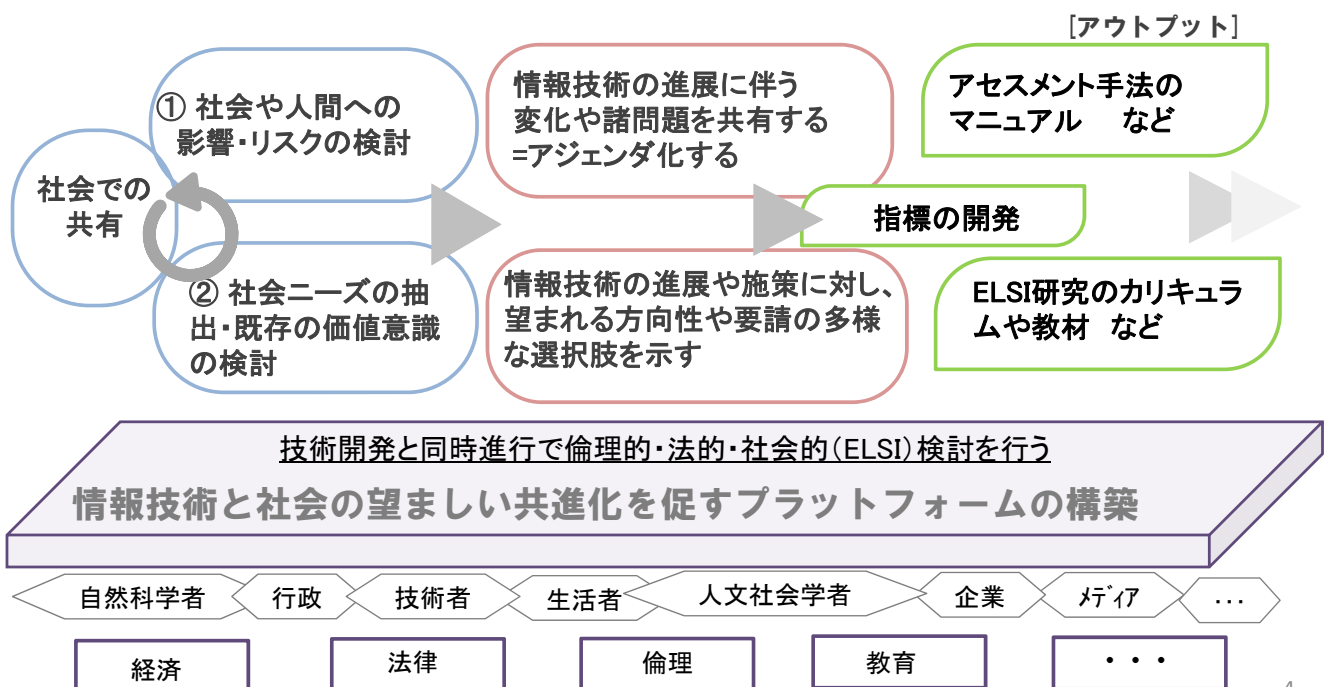
# インパクトが大きくなる中で 人文・社会科学と技術の対話が重要



3

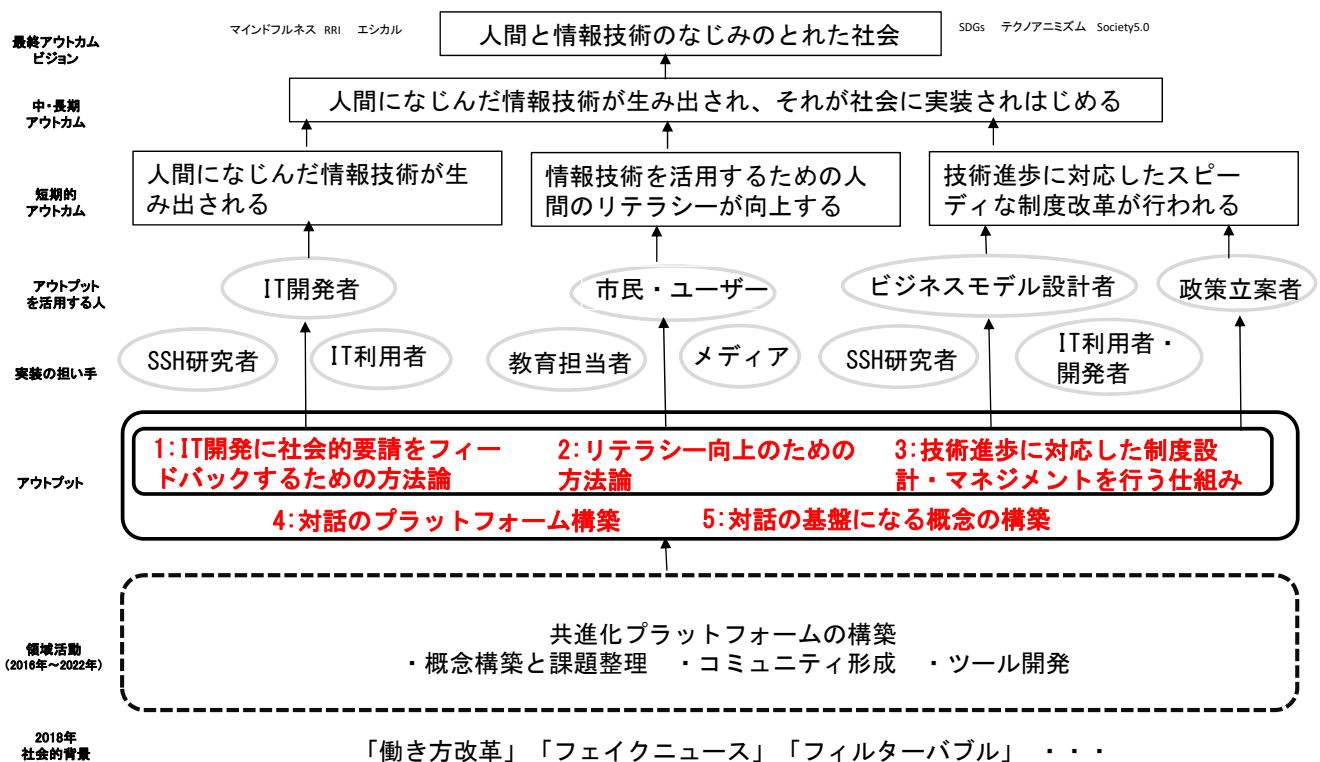
## 「人と情報のエコシステム」領域の目標

- 情報技術と人間のなじみがとれている社会を目指すために、情報技術がもたらすメリットと負のリスクを特定し、技術や制度へ反映していく共進化プラットフォームの形成を行う。



4

# 本研究開発領域が目指すアウトプット



## 研究開発領域総括・アドバイザー(2019年5月現在)

役割	氏名	所属機関	役職
総括	國領 二郎	慶應義塾大学 総合政策学部	教授
総括補佐	城山 英明	東京大学大学院法学政治学研究科	教授
AD	加藤 和彦	筑波大学大学院システム情報工学研究科	教授
AD	久米 功一	東洋大学経済学部総合政策学科	准教授
AD	河野 康子	一般財団法人 日本消費者協会	理事
AD	砂田 薫	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター	主幹研究員
AD	西垣 通	東京大学	名誉教授
AD	信原 幸弘	東京大学大学院総合文化研究科	教授
AD	松原 仁	公立はこだて未来大学	副理事長
AD	丸山 剛司	中央大学理工学部	特任教授
AD	村上 文洋	株式会社三菱総合研究所 デジタル・イノベーション本部 ICT・メディア戦略グループ	主席研究員
AD	村上 祐子	立教大学理学部	特任教授

# 採択プロジェクト一覧

(赤字がH30年度、黒字がH29年度・H28年度採択)

①IT開発に社会的要請をフィードバックするための方法論	②リテラシー向上のための方法論	③技術進歩に対応した制度設計・マネジメントを行う仕組み	④対話のコミュニティ形成(プラットフォーム)	⑤対話の基盤になる概念の構築
<b>北村PJ</b> 見守り技術の共進化視点を盛り込んだ技術開発	<b>大澤PJ</b> SFとAIの関係可視化と新たなデザインフィクションの提示	<b>山本PJ</b> 新しい人間と機械のタスクモデルの構築	<b>庄司PJ</b> 技術と社会の対話のためのプラットフォーム構築	<b>鈴木PJ</b> 人工知能の哲学2.0の構築
<b>小長谷PJ</b> 分子ロボット技術の影響評価とあるべき技術開発のあり方	<b>尾藤PJ</b> AI時代を幸せに生きるための人間のあり方	<b>柴崎PJ</b> CI-PI流通に関する市民・企業・公共プラットフォーム		<b>葭田PJ</b> 人間とシステムがなじんだ状態での主体と責任はどちらに
<b>標葉PJ</b> 情報技術のテクノロジーアセスメントと情報発信のあり方		<b>橋田PJ</b> パーソナルデータの社会受容性調査		<b>浅田PJ</b> 自律性のレベルに応じたAIを法的モデルとして定式化し、
<b>江間PJ</b> 技術開発に多様な価値観からの意見をフィードバック		<b>田中PJ</b> 霧即に基づいたAIの評価と技術開発へのフィードバック		<b>松浦PJ</b> 自律システムが浸透する社会における責任概念の
<b>安藤PJ</b> 心の豊かさをサポートする情報技術のためのガイドライン		<b>鷲田PJ</b> 情報社会の変化シナリオの作成とマーケティング現場の		
		<b>新保PJ</b> 情報技術の影響評価と新しい社会制度の提言		

7

## 2019年度 英国 & 日本共同ファンディング

- 2019年度公募では、英国ファンディングエージェンシーUK Research and Innovation (UKRI) (Economic and Social Research Council (ESRC) とArts and Humanities Research Council (AHRC)) との共同ファンディングを実施。
- 領域として国際化の観点を強化するとともに、日英の比較調査や英国研究者との共同研究による相乗効果によって、成果の最大化を目指す。



8

## 共同プロジェクトのテーマ(P16～18)

以下のテーマに関連していることが必須条件。

- Impacts on humans and society- Future happiness, wellbeing and the individual
- Economic implications, skills, work and education
- Transparency, responsibility, governance and ethics

9

## 選考にあたっての主な評価項目(P29)

- Relevance to the Call
- Originality / Potential Contribution to Knowledge
- Research Design, Work Plan and Research Team
- Value for Money
- Knowledge exchange, Impact and Outputs
- Strength of International Collaboration

10

採択にあたって、HITEが重要視する点(P16)

“Ultimately, the call aims to contribute towards **the development of a platform for effective and sustained dialogue and engagement between a range of researchers and other relevant stakeholders**, eventually leading to practical implementation and policy recommendations.”

11

## 公募の流れ

- (1) RISTEX・ESRCとの間で、共通テーマに基づいて共同提案を募集
- (2) 日本側研究者と英国側研究者が、共同して提案書を作成・応募
- (3) 各機関が独立して選考を実施するが、両機関の選考結果を持ち寄り共同ボードによって最終審議を実施
- (4) 採択後は、RISTEXは日本国内グループの研究機関を、UKRIは英国研究機関をそれぞれ支援

12

# 公募スケジュール

提案  
×切り

## 7月17日(水) 正午

書類選考	7月～8月
面接選考	9月26日(木)または10月10日(木)
選考結果の通知・発表	11月～12月中(予定)
研究開始	1月中(予定)

- 問い合わせ先: 国立研究開発法人科学技術振興機構  
社会技術研究開発センター企画運営室 募集担当

E-mail: [boshu@jst.go.jp](mailto:boshu@jst.go.jp) Tel: 03-5214-0133